知恵の経営報告書

２０１８

人見石工

ご挨拶

京都市右京区京北細野町にて、石積み業を営んでおります。「石工」は「いしく」と読み、大工（だいく）と並び、歴史的にも建造物施工に必要とされてきた専門技術職であります。

昨今自然石を巧みに積み上げる職人の数が極めて少なくなってまいりましたが、人見石工では、自然石を巧みに積み上げる「野面積み（のづら）」を得意としております。その他にも、手仕事による職人技が活きる石積みを数多く手がけております。現在、創業者から５代目となりますが、先代から「石を組み、積み上げる」という技術を受け継ぎ、現在も変わらぬ技法でモノづくりに取り組んでおります。

2015 年 8 月に「知恵の経営」実践モデル企業に認証されたことから、文化財等の復旧工事などの文化財保存地区の仕事を受けるようになり、前回認証時の目標であった民間、寺社仏閣の工事に加えて、文化財などの新たな分野において方向性が見えてきました。そしてそのビジョンに向かって当社の知恵をどのように強化していくかを検討したいと思うようになり、今回知恵の経営報告書 2018 年版の作成に取り組むことになりました。

平成 30 年 7 月 12 日
人見石工
代表　人見 真一朗

会社概要

１．会社概要

【会社名】　人見石工
【創業】　昭和 38 年
【代表】　人見　真一朗
【従業員】　0 名
【事業内容】　一般石材、造園石積み、玉石積み、設計、施工
【本社所在地】　京都府京都市右京区京北細野町風ヶ鼻 9-9 乙合地
【Web サイト】　http://www.hitomi-ishiku.com

２．沿革

【創業期・成長期】(1960 年～1990 年)

年月	沿　革
1900 年	初代　中嶋千吉（現事業主真一朗の曽曽祖父）が石工として井戸の石垣などを積む事業を南丹市八木町で創業。
1925 年	2 代目　中嶋誠一（千吉の長男、現事業主真一朗の曽祖父）に事業を承継。数々の民間工事の石垣の施工を行う。 （乱積み） （乱積み）
1940 年	3 代目　中嶋仁市（誠一の長男、事業主真一朗の父である淳一の伯父）に事業を承継。民間工事だけでなく、災害復旧などの公共工事のブロック積などの施工も行う。 （野面積み） （野面積み）

1960 年	人見淳一が 3 代目、中嶋仁市に弟子入り 4 代目として人見淳一（仁市の甥）・中島敏男（仁市の長男）に事業を承継。
1963 年	4 代目として　人見淳一が旧京北町で独立する。
1988 年	京北地域において大規模な河川改修が始まる。

初代、中嶋千吉が石工として井戸の石垣などを積む仕事を始めました。
2 代目、中嶋誠一、多くの石工がいたにもかかわらず素晴らしい技術を持っていた誠一、同業者からも一目置かれる存在でありました。
1980 年後半、淳一 48 歳の頃、現右京区京北地域において大規模な河川改修工事が始まりました。

弓削川の河川改修工事、また日吉ダムの建設に伴う桂川の改修工事で、その工事の大半はブロック積み工事であり、1 日、数カ所の現場を掛け持ちするなどハードな日々を過ごしていました。
また、この頃公共工事だけでなく民間工事も数多く依頼されるようになり、得意とする野面積み、崩れ積みの技術が京北地域の住民らにも認められ、石積み＝人見淳一とまで言われるようになりました。
そして、作業の正確さ、仕事の綺麗さ、スピードの速さが認められ取引先からも絶大なる信用を得ることとなりました。これらのことがあって、同業者が京北地域に入り込む余地はありませんでした。

施工個所　常照皇寺　竜安寺　知井八幡宮　その他寺社仏閣等

下熊田　宝泉寺
（1990 年 野面積み・新規工事）

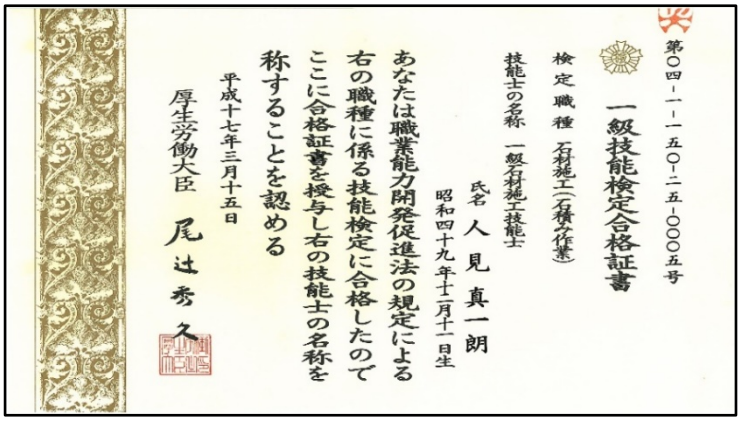
知井八幡宮
（2001 年　野面積み・改修工事）

龍安寺
（2010 年　野面積み・改修工事）

M 邸石積み工事
（1985 年　崩れ積み・新規工事）

常照皇寺
（1994 年　野面積み・新規工事）

【成熟期】（1997 年～2005 年）

年月	沿　革
1997 年	5 代目人見真一朗が父淳一の弟子となる。
2000 年 4 月	屋号を人見石工とする。
2001 年	人見石工オリジナル「こぶ積み」」の開発が始まる。
2004 年	台風 23 号が日本各地を襲い、京都にも多大な災害をもたらした。 その翌年から台風 23 号における災害復旧工事が始まった。
2005 年 S34～H24 １級技能士 （石積み作業） 資格保持者 全国 492 名 2017 年 3 月 現在	石材施工（石積み作業）の１級技能士の資格を真一朗（淳一の長男）が取得 

台風 23 号の影響で災害復旧工事が出始めた頃、これまで京北中心だった現場も石工不足とも重なり、南丹市、福知山市、綾部市等、他地域に出る機会が多くなってきました。また、2005 年 4 月に我々の住む町（旧北桑田郡京北町）が京都市右京区と合併し、京北にも多くの土木業者が入り込むようになりました。また逆に京都市内の現場に出向くようにもなりました。そこで多くの土木業者さんと出会い、仕事をさせていただく中で、他の業者さんを紹介していただき、現在に至るまで取引をさせていただいております。

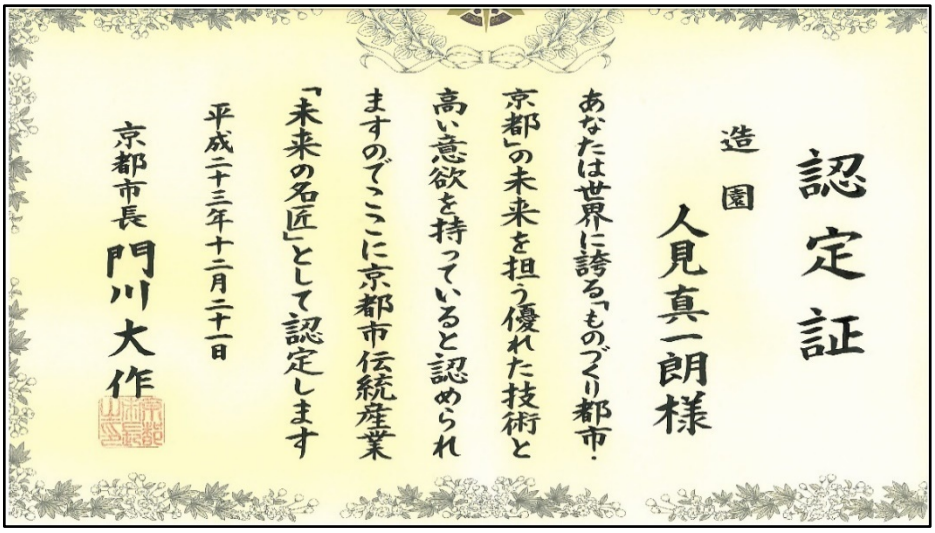
2001 年京北地域の上黒田にて石積み改修工事が始まりました。その中でも春日神社においては手間をかけ、他の現場とは違った積み方にしようということで、人見石工オリジナルの「こぶ積み」（図 1）を初めて施工しました。2005 年には 5 代目真一朗が石材施工（石積み作業）１級技能士の資格を京北で初めて取得しました（現在も京北で 1 名）。京都では受験者がいなかったため、滋賀県で受験することとなりました。その数ヶ月後には、京都御所内での石積み工事（図 2・図 3）をさせていただき、この資格が役に立ちました。

（図 1）上黒田春日神社
（1998 年　こぶ積み・新規工事）

（図 2）京都御所
（2005 年　野面積み・改修工事）

（図 3）京都御所
（2005 年　布積み・改修工事）

【転換期】(2010 年～2013 年)

年月	沿　革
2010 年	自社ホームページを作成 　カタログの役割も兼ねたホームページを作成。
2011 年	(淳一の長男) 真一朗が京都市伝統産業「未来の名匠」に認定される 

京北の右京区との合併や公共工事の入札方法の変更などで、これまでの取引先が仕事を取ることが難しくなり、2006 年くらいから 3 年間ほどは仕事の数も減少傾向にありました。そこで 2010 年自社の PR も含め、自社カタログの代用品としてホームページを作成致しました。全国各地から問い合わせの声が届き、そのページを閲覧された方から直接仕事を依頼されること(現在までで 5 件施工済み)が多くなりました。

真一朗が石工として 15 年の歳月が経過した 2011 年 12 月、京都市伝統産業「未来の名匠」の認定を受けました。しかし、父・淳一の自然石を積み上げる技術や石垣のデザインに対する発想力には、まだまだ追い付くことが出来ず、現場の事に関して相談しては的確なアドバイスをもらっています。

未来の名匠認定制度
提出作品のひとつ
(2011 年　野面積み・新規工事)

民間大規模石積み工事
(2012 年　野面積み・新規工事)

人見石工オリジナル
「こぶ積み」
(2014 年　こぶ積み・新規工事)

【発展期】（2015 年～2017 年）

2015 年 1 月	知恵の経営報告書作成途中ではあったが、父人見淳一から私人見真一朗が事業を承継した。
2015 年 8 月	・「知恵の経営」実践モデル企業の認証を受けた。 ・文化財保存地区や観光地などの景観を意識した場所での石積み工事に携わる事が多くなった。 （例）南丹市美山町かやぶきの里での石積み改修工事、宇治川塔の島石積み改修工事 野田川(加悦奥川)広域河川改修工事等
2016 年	ＴＶ、専門誌の取材を受け石積みについての情報発信を行う機会が増えた。 2016 年 10 月ＮＨＫ「ええとこ」 2016 年 11 月「商工連だより（今月の特集インタビュー　がんばってます！）」
2017 年	自社パンフレットの作成とホームページのリニューアルを行い営業ツールとして使用している。 2016 年に引き続き取材を受け情報発信となった。 2017 年 ６月ＫＢＳ京都「京ｂｉｚＸ」 2017 年 10 月「月刊石材」 2018 年 ２月朝日放送「一志相伝」

2015 年 8 月京都府中小企業「知恵の経営」実践モデル企業として認証を受けたころから、景観に配慮した美観が求められる、人目に触れる場所での石積み作業に数多く携わるようになりました。同時に多くのメディアにも取り上げられるようになり「人見石工の石積み」を世に伝える、そして広める土台ができ始め、多くの方に「石積み」というものを知ってもらう機会が増えました。

また、一級石材施工技能士の資格だけでなく、重機の免許や施工管理の資格を持っていることから受注できることが多くなりました。文化財においては資格に加えてお客様が求められる以上の出来栄えを意識していることで高評価をいただき、人見石工の石積みが他社のそれとは違うということを再認識しました。

理念・方針

1. 経営理念

・これまで受け継いできた伝統の「技」（自然石を組み合わせて積む技術）を守りつつも、「挑戦」する心（新しい積み方や、新しい環境に対応する石積みなり製品据付等へ積極的に対応する精神）を忘れることなく後世に残る石積みを行っていきます。
・ 住民の「安全・安心」を守るための土台となる石積みをしっかりと行い、安心して暮らせる街を土台から支えます。

※　人見石工にとっての安全とは、石積みは基本的にコンクリートを流し込み硬化させなくても石を積み上げるだけで、耐久性や安定性等を保持していなくてはならないという考え方に基づいています。胴込めコンクリート（石と石との間に打設するコンクリート）の硬化作用で石垣の強度を保つような積み方ではいけません。例えば逆石や四つ目等の技術的にタブーな積み方を行っていれば、見た目も悪く、崩壊する可能性は高くなります。我々は、そのやってはいけない積み方について十分理解し、先代から受け継いだ「石を組み、積み上げる」技術があるため、安全面においてお客様に自信を持って提供できます。石積みは見た目も大事ですが、まずは安全が第一となります。耐久性や安定性をなくして石垣は語れないほど第一に考えます。

2. 経営方針

- 安全を第一として安全なくして作業は行いません。
- 伝統の技を守りながらも挑戦する心は忘れません。
- お客様の立場で物事を考え、双方が納得できるように努めます。
- 良いもの（自分たちの納得のいくもの）を造るためには妥協はしません。
- 多くの方に石積みの良さを知っていただくために情報を発信し続けます。

※ 「石積みの良さ」とは石積みは一度積むと半永久的なものであります。また強度的にも優れていますし、排水処理をすれば排水性にも優れています。石積みは強度的に「安全」ということです。そして一番の特徴は石というものは年月と共に石肌の色が変化し、深みのある独特の趣を醸し出します。つまり外観上（見た目）が優れているということです。石の色、組み方、積み方、周りの景色との調和など、それを見ていれば心が癒される。そんな気分にさせてくれるところが石積みの良さであると私たちは考えています。今回の報告書のリメイクにより前回作成した報告書を見直し５年後の目標に向かって計画に沿って進んでいるのか？また改善点はないのかと改めて考え直す機会となりました。そして、目標を新たに設定しその実現に向けた具体的内容を明確にすることができました。

サービス・技術・ノウハウについて

1．主要商品・サービスについて

（1）私たち石工の仕事

石工とは、読み方を「いしく」といいます。石材を必要とする工事に携わる人をいいます。お城の城壁や石橋、用水路、河川の改修工事（川岸などの護岸）などで使われる石を現場で積んだり組んだりする職人のことをいいます。

自然石は、木材と並んで最古の建材のひとつであります。また、古くは頑丈で長持ちはするものの加工が難しくコストのかかる建材でもありました。そのため過去には重要とされた分野で石が使われてきました。石工はそういった事業にかかわり合う専門的な職業として古くから確立されてきました。

（2）積み方による石垣の分類

石垣は積み方によってそれぞれ分類されます。大きく 2 つに分類され、布積みと乱積みに分けられます。

① 布積み

方形（ほうけい）に成形した比較的大きな石を目地が横に通るように積み上げる方法です。しかし目地が通っているので強度に問題があります。（下図 4 参照）

（図 4 布積・京都御所内）

② 乱積み

大きさの違う自然石の平石、加工した平石をさまざまな方向に組み合わせて積み上げる方法です。（下図 5 参照）

（図 5 京都霊山護国神社内）

（3）外観による石垣の分類

①算木積み

石垣の（隅「角」）の積み方で、長方体の長辺と短辺を交互に重ね合わせることを言います。（次頁図 6 参照）

（図 6 南丹市八木町内）

算木積み

②谷積み

平石の隅を立てて積む方法で落積みともいいます。（下図 7 参照）

（図 7 右京区京北下熊田町内）

③亀甲積み

石材を六角形に加工して積み上げる方法で、亀の甲羅の模様のように見えることからその名が付けられたそうです。（下図 8 参照）

（図 8 名古屋市内）

④玉石積み

その名の通り玉石を用いた積み方になります。（下図 9 参照）

（図 9 右京区京北比賀江町内）

・自然石を使用した石積みの分類

<table>
<tr><th>石の積み方による分類</th><th colspan="2">石積みの外観による分類</th><th colspan="2">種類</th></tr>
<tr><td>１．図４　布積み</td><td colspan="2">布積み
（煉瓦積み、長手積み）</td><td colspan="2">野石布積み</td></tr>
<tr><td rowspan="3">２．図５　乱積み</td><td>図７　谷積み</td><td>図６
算木積み</td><td>野面積み・崩れ積み・こぶ積み・矢羽積み・矢羽谷積み・綾織積み・往復積み・行違積み・鵜立返積み</td><td rowspan="3">玉石布積み</td></tr>
<tr><td colspan="2">図８　亀甲積み</td><td>亀甲積み・並亀甲積み・亀甲谷積み・玉石亀甲積み</td></tr>
<tr><td colspan="2">図９　玉石積み</td><td>俵積み</td></tr>
</table>

ここに挙げた種類の他にもたくさん種類がありますが、外観による分類への分別がはっきりしないものがありますので省略させていただきます。

（４）人見石工の仕事

我々人見石工がお客様に提供するのはコンクリートブロックや自然石を「積む技術」です。毎年 11 月から 3 月にかけては主に河川工事（災害復旧工事）のブロック積みを行います。春はアマゴなどの渓流釣りが解禁となり、夏場はアユの友釣りや網入れの解禁となるので、それらのシーズンオフとなる秋から春までの期間は河川工事が行える時期なので、そのシーズンオフに災害復旧工事が集中します。逆に河川等の災害復旧工事が行えない春先から秋にかけては民間工事の石積み工事を主に行っております。

（５）人見石工の特徴

①地域に合った石材の選定

先程、石積みの外観による分類で谷積みや玉石積みを説明致しましたが、「谷積み」にも野面積みや崩れ積み、矢羽積み等の種類が存在します。それぞれの地域によって石の大きさや石の形状、固さによって積み方は異なります。例えば、私たちの住む右京区京北地域は昔から川石が豊富にあったので川石を利用した野面積みや崩れ積みが多く施工されてきました。

また、京北地域内でも上流付近は青石といって硬めの石がありますし、下流に行けば若干加工のしやすい固さの石があります。また石の色も豊富で青、赤、ピンク、黒、茶色等、京北地域内だけでもたくさんの種類の石があります。昔から京北地域では赤石を積むことを拒んでいました。赤石よりも青系の石を好んで使用していました。はっきりとした理由は分かりませんが、赤系の派手な色は好まず、青系、茶系等の落ち着いた色を好んだのは地域性と土地柄を表していると思います。これらの川石に加えて山から出る山石もありますので、材料は豊富にありました。

つまりそれぞれの地域によって材料となる石も違い、固さによって積み方も変わってきます。

②昔ながらの石積み工法

現在自然石を使用した石積みを行う職人が減少するなかで、我々人見石工では石を組み、積み上げるという昔ながらの石積みの工法を守りながら、「野面積み」や「崩れ積み」を得意としております。「野面積み」とは大小さまざまな石を使用し、石の面（つら）を加工することなく、そのまま積み上げていく工法です。また、「崩れ積み」とは、石が崩れかかったように見せる積み方で、野面積のような寸分のくるいのない合端（石と石との接着面）の合わせ方などはなく、遊び心を取り入れた積み方が「崩れ積」であるとされています。

③人見石工オリジナル商品

数年前から「野面積み」と「崩れ積み」との中間に位置する「こぶ積み」（図 10）という技法を新しく考案し、人見石工オリジナル商品として施工しています。野面積にある合端の合わせ方の正確さや、崩れ積みにある遊び心を取り入れた積み方です。意図的に石の面の「こぶ」を出し、石垣に陰と陽を作り出し、見る方に石垣を楽しんで欲しいという思いで考案致しました。

これまで数件施工させていただきましたが（図 11)、いずれもお施主さんには、喜んでいただいております。上記の石積みに関して、我々はその場にある石の古材、新材、再利用にかかわらず石積みを行える技術とその場に合う積み方、発注者の要望に合う積み方等、さまざまな要望に対応出来る技術をもっています。現在、この自然石を積む技術を持つ職人が京都でも私どもを含めて数名だと言われています。

（図 10）こぶ積み・新規

（図 11）こぶ積み・新規

人見石工が得意とする石積みである「野面積み」や「こぶ積み」、「崩れ積み」は基本的には谷積みで行います。材料の大きさは大小さまざまですが、強度を持たせるために一つ一つの石を組んでいきます。次に積む石のことも考えながら、谷を意識しながら、石の配置も考えながら積み上げていきます。石の面（つら）はサイコロと同じく 6 面あると言われています。どの面（つら）を使用しても間違いではありません。しかし、据える谷の大きさや全体の石の配置、バランス等々を考えていくと使用する面（つら）は限られてきます。ここで職人のセンスが問われます。「十人十色」という言葉がありますが、積む職人によって出来栄えは様々だと思います。

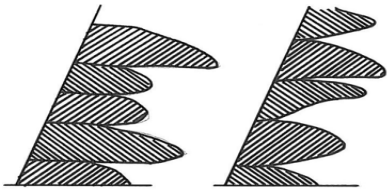
人見石工は永年伝え受け継いできた「積む」技術と今までの経験で養われてきた石の面（つら）を的確に見極める「石工の目」を持っていることで、これらの石積みを強度や美観のバランスを取り施工することができます。

２．技術について

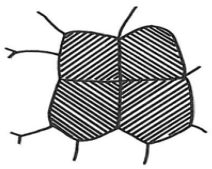
（１）安全性と美しさを実現する代々受け継がれた石積みの技術

石の積み方や材料の選定には施工地域や建造物とのバランス、庭とのバランス、色とのバランス等を考慮し、石垣が勝ってもいけませんし、劣ってもいけません。バランスを常に心がけ、そして周囲の環境と石垣が調和することや、石垣を上品に見せるように心がけています。

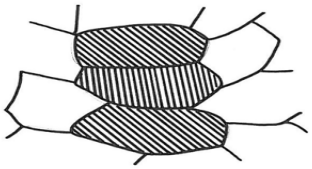
しかし、強度と美観を兼ね備えるには石積みにはしてはいけない決まりごとが多数あります。例えば「逆石」（図 12 参照）、これは石の胴長の大きいものを上石として胴長の小さい下石の上に据えたもの、また控えを上げて据えたもののことをいいます。これでは、土圧や重力に負けてしまい顎が出たようになり、最終的には石が滑り落ちてしまう危険性があります。



（図 12 逆石）



（図 13 四つ目）



（図 14 芋串）

また「四つ目」（図 13 参照）は十字型の目地のことで、目地が通ることをいいます。これも目地が十字に通る場所に土圧等がかかってしまった場合には十字に通っているのでかみ合うところがなく崩れやすくなります。

そして、「芋串」（図 14 参照）は等大の石を縦に積み上げるものです。これも四つ目同様にかみ合うところがありませんので、土圧等によって中間の石が滑り落ちる可能性が高くなります。

他にも「四つ巻」、「重箱」、「目通り」等、いずれも、土圧や重力がかかるとかみ合う部分がないために押し出されてしまい崩れる可能性が高いとされてきました。これらは素人が積むと大抵でてくる積み方です。現在はコンクリートを胴込め（石と石との間）に打ち込み、固めることが一般的になっていますのでコンクリートの力を借りてこれらの積み方を行っても崩れることはありません。

しかし、やってはいけない積み方で積まれた石垣は見た目も悪く、石垣全体が締まった感じではなく、どこか気の抜けた感じに見えてしまいます。

(図 12-① 逆石事例)

図 15 土圧、木根により腹を出し崩壊寸前の石垣

図 15-① 同じ材料を使用し積み直しを行った石垣

基本はあくまで空積みで積み上げることなので、「積む」というよりは「石を組む」と言った方が正しいのかもしれません。組んだ石垣ならば、石垣の中の石をひとつ引き抜いたとしても崩れることはありません。我々人見石工は、長年の経験と代々受け継がれてきた技術を持っており、石積みの１級技能士の資格も取得していますので、そのような間違った施工方法は行いません。そのため現在多くの取引先からもブロック積みや石積みに関して多大なる信用を得ております。

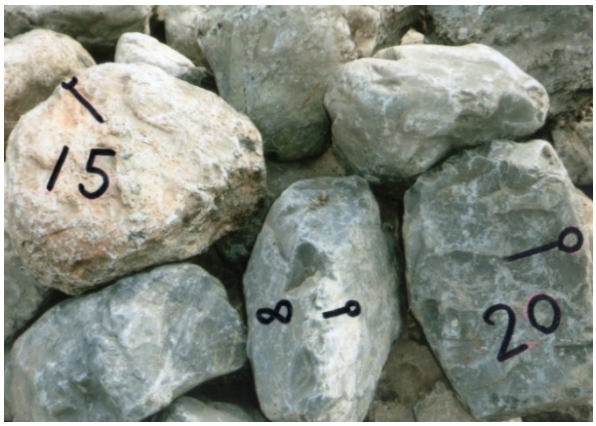
（2）自然石を選別する熟練の目と感覚でコストダウンを実現する

我々人見石工は、石積みに関して数多くの現場を施工していることもあり、「石の面（つら・六面）を見る」「石を選定する」ことにおいて同業者よりもスピードが速く行えます。定規を使うことなく石の高さ、幅、谷の角度を目測で感じ取り、数多くある石の中からその谷に合う石を選び出し、据える技術は日頃から養われているため作業スピードが速くなります。積み上がるスピードが速くなると、工程的にも 1～2 日、大きな現場では 5 ～6 日短縮されます。

例えば、積み上げる石の大きさ約 450～500ｍｍの場合、人力ではどうする事も出来ません。重機で吊り上げ、据付位置まで持って行くのですが、あらかじめ熟練の目でイメージして各々の谷に合う石を 10～20 個ほど選んでおきます（図 16）。その石に番号を打ち、ワイヤーで吊る位置にも印をうっておきます。それを順番に運んでもらい加工し据付けます。慣れない人は、その石を選別することに時間がかかってしまいます。

我々人見石工は熟練の目と感覚で選別作業をスムーズに行うことが出来ます。その結果、時間短縮の積み重ねがコストダウンにつながっていきます。

（図 16）石の山から積む石を選別して番号を打つ



（図 16-①）石の番号と玉掛けの位置

（3）高い施工品質を実現する周辺業務の資格と経験

現場で石工が一人で作業することはなく、現場責任者、現場監督、重機オペレーター、石工の手元（土木作業員）、材料の搬入業者等さまざまな人たちがいます。その人たちの協力で石積み作業というものが成り立つため、石積み作業だけでなく、土木作業を経験し、重機の免許や施工管理の資格を取得し、それぞれの作業を経験した上で各々の立場を理解することでより深いネットワークを築き上げ施工性を向上させると考えます。また、工期短縮の相談、石積みにおける技術面の相談等の現場の声に耳を傾け応えるなど、顧客との信頼関係をより深いものにしています。そして常に顧客が求める以上の出来栄えとなるよう努力しています。

＜周辺業務の資格等＞

石積み施工（石積み作業）	一級石材施工技能士（資格保持者　全国447名　2015年1月）
京都府認証	「知恵の経営」　実践モデル企業
京都市伝統産業	造園 未来の名匠
重機の免許、施工管理	フォークリフト
	車両系建設機械（整地等）
	玉掛
	小型移動式クレーン
施工管理の資格	一級造園施工管理技士
	一級土木施工管理技士

受注事例

１．兵庫県猪名川町災害復旧工事　野面積み工

（発注者　兵庫県猪名川町　施工　はまつ組）

＜特徴＞

現状復旧を目的とし、以前積まれてあった石や現場採取の材料で積み上げ、平張りをおこないました。災害復旧であるため石の加工も最小限に抑え、ほぼ無加工に近い形で石を組み積み上げていくところに災害復旧の石積みの特徴があります。

元請業者からは、仕上がりには差をつけてほしいとの依頼がありました。それは今回の現場の下流で、以前施工された災害復旧工事が、石を組まず目地モルタルで石と石をもたすといったずさんな工事をされていたためでした。仕上がりを意識して施工させていただいた結果、発注者からの評価点数も 90 点越えの高得点をいただき元請業者にも喜んでいただきました。

２．南丹市美山町かやぶきの里　野面積工野面積み工

（発注者　京都府　　施工　株式会社松村組）

＜特徴＞

観光地内での石積みであり景観等も意識をして施工しました。滋賀県安曇川産の材料を使用しており、扱いには慣れていたので比較的スムーズに作業ができました。石垣の勾配が若干緩く、石を据えるのには苦労し、時期的にも積雪が多かったので、その点については苦労もありました。

一般的な河川工事なら石垣に目地をしがちですが、こちらの意向と施工業者の意向とが合致したので、仕上げの美しさ、景観等を考慮して目地の施工はしない仕様にしました。隣の現場では目地を行っていたため上流、下流で仕上がりに差が生じました。施工業者にはこちらの提案に賛同いただくことができましたし、発注者には仕上がりの美しさを喜んでいただきました。

３．塔の島（張石）野面積み工

（発注者　国土交通省　施工　公成建設株式会社）

＜特徴＞

2 割勾配で石を張っていきます。ラウンディング部はほぼ水平に石を張っていきました。岐阜県産の石を使用しています。石の一つ一つにアンカーを打ち込み練積みではありますが、特殊な方法で石を固定しています。石工数名で施工しておりますが、人見石工が通常行う他の谷に石を落とし込み、石を組みながら積み上げる方法で施工しました。一般的な職人は、石を落とし込み組むという積み方ではなく、谷をなるべく作らず、石を安定よく横方向に使って積んでいきます。強度的なもの、見た目の美しさからすると当社の積み方の方が優れています。このような石積みを理解されている検査官からは高評価をいただきました。

弊社ビジョン

1．ビジョン

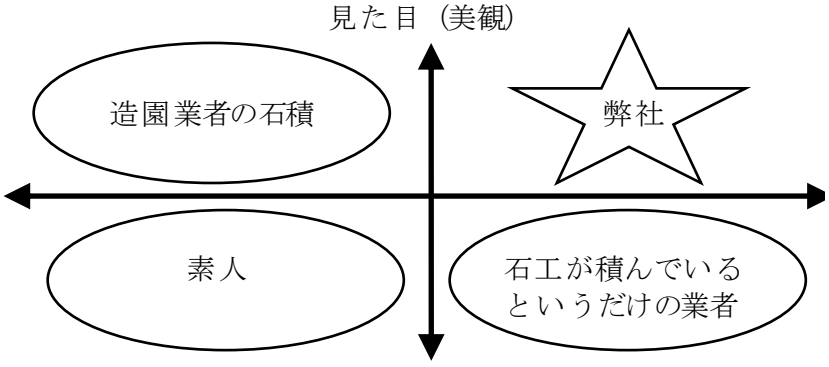
日本一の「目」と「技」を持つ石積み職人

～石の面（つら）を的確に見極める確かな「目」と正確な組みと積みを行う「技」で自然石を使った美観が求められる分野の No.1 石積み職人～
～工事の美観性（仕上がりの美しさ）追求による顧客の工場評点アップに貢献する～

2015 年は利益率の高い民間元請工事に多く携わり、年間売上高を約３倍にすることを目標としていました。ここ数年、文化財や観光地の景観に配慮した石積み工事に携わることが多くなり、この分野の石積みは誰でもできるものではなく、この方面こそ自分が力を注いでいくものだと考えています。京都だけでなく全国の文化財保護課へ、「石積みとはこうだ」といった石積みの文化と技術を知っていただくロビー活動を行い、公共の文化財の仕事はどこの建設業者が請け負っても石積み部分は人見石工に発注がくるようになるのが目標です。

最近の顧客である建設業者は仕上がりにこだわる業者が増えてきているように感じます。以前なら仕上がりよりも、損せずそこそこの仕上がりになるよう施工していた建設業者が多くいました。ところが景観に配慮した場所での工事では、「誰が施工した？誰が積んだ？」という話に必ずなるため、そのあたりを意識する業者や発注者が増えつつあると思います。特に公共河川工事については当社が石積みをすることで所有資格と完成の出来栄えで工事評点アップになるため、建設業者の方たちのニーズに応えることができます。景観に配慮した場所で石積みを行うということは、美観が求められる工事であり、完成度が高ければ受注者には実績が残ります。公共工事では完成した工事に点数がつけられ、その中にはいろいろな項目が存在し、当然仕上がりも加点対象となります。我々は、これらの事を常に意識して作業を行っております。また、人見石工が保有する１級技能士や「未来の名匠」等も微々たるものですが加点対象となります。これらの資格や認証制度は弊社の信用にも繋がり、弊社と契約する業者にとっても安心して契約することができます。たまに、施工中の現場を途中で投げ出す者がいるので、信用があるのとないのでは大きな差となります。信用を得るためには、多くの業者や発注者に対し名を知っていただく必要があります。そのためには実績を積み重ね、その様子をＳＮＳ等で発信する必要があります。加えて自社パンフレットも活用して我々が自然石を「組み、積む」ことを対象者である建設業者に対し表現（アピール）し伝える必要があります。建設業者や発注者から口コミでいろいろな場所で、いろいろな方へ人見石工という名前を拡散してもらうことで認知度の向上に繋げたいと考えております。

（ポジショニング）



・南丹市美山町かやぶきの里内石積み改修工事（施工業者　株式会社長田工業）

施工前

施工後

既設の石に番号を打ち、現状復旧を目標に作業をいたしました。材料として使用するには困難である割れている石や控えのない石等があり石垣としての強度を考慮して通常使用されていた面（面）とは違う面を使用し、角石も割れが入っていましたので現場内で使用されていた別の石を角石として再利用するなどして石垣の強度、美観（仕上がり）を意識して施工させていただきました。

・南丹市Ｓ邸石積み工事

施工前

施工中

施工後

近年では珍しい茅葺き民家の新築工事に伴い石垣を新たに積ませていただきました。設計図はなく、施主さんの希望にこたえるために、我々の永年の経験と即日対応でいろいろ対応させていただき完成までたどり着くことができました。施主さんがコンクリートは味がないと言われましたので、できるだけ石積みからコンクリートが見えない様に施工させていただきました。また材料は施主さんが持っておられたものを使用しました。

２．当社の提供価値

（１）資格と高い美観性による工事評点ＵＰ

人見石工　代表　人見真一朗が保有する石材施工（石積み作業）の１級技能士の資格や京都市伝統産業「未来の名匠」などの資格は職人の信用とその者を雇用する建設業者に対して少なからず工事評点ＵＰに繋がります。例えば、国土交通省近畿整備局の工事では河川維持・道路維持・除雪作業を除く予定価格６千万円以上のすべての工事に対して、保有している１級技能士の資格は、技術提案型で0.5点、施工能力評価型では１点の加点があります。そして人見石工が常に意識する美観性（仕上がりの美しさ）により、さらに発注者に対して良いイメージを与え、信用されることで工事評点ＵＰをさせる材料となります。京都府では出来ばえという項目があり8点くらいあるようです。書類で評価点を取る業者、現場の出来ばえで点数を取る業者と2パターンあり、両方で点を取る建設業者はめずらしいと聞いています。その現場で取れた点は、次の入札に影響を及ぼすため、入札に参加する建設業者は点数をとりたいと考えます。弊社は評点アップを提供できる技術と資格を保有しています。

（2）状況に応じた対応力による多彩な提案と施工スピード

これまでの経験と勘により、建設業者から急な提案や無理難題を言われたとしても対応出来る能力があり、また出来ない場合や危険である事に、しっかりと理由を付け加えて助言する事ができます。その判断力、対応力により決断も早く、最短で施工にかかることができます。

（3）資格と豊富な実績による信頼と安心感

石工に求められるものは、石を選定する「目」と正確な組みと積みを行う「技」にあります。実績に裏打ちされた伝統の工法は、自然石独特の表情豊かな趣と経年と共に美しさを醸し出す頑丈な石積みを築き上げます。これまで積み上げてきた実績と経験、そしてここで保有する資格が発注者および施工業者に信用と安心を提供することができます。

(保有する資格)

石積み施工（石積み作業）	一級石材施工技能士（資格保持者　全国492名　2017年3月）
京都府認証	「知恵の経営」　実践モデル企業
京都市伝統産業	造園 未来の名匠
重機の免許、施工管理	フォークリフト
	車両系建設機械（整地等）
	玉掛
	小型移動式クレーン
施工管理の資格	一級造園施工管理技士
	一級土木施工管理技士

あとがき

1．あとがき

今回、この知恵の経営報告書を作成するにあたり前回とは違った新たな方向性が見えてきました。自社の現状をより理解した上で、時代の流れやお客様のニーズにどう応えればいいのか？将来的にどう進むべきなのかを改めて考えることができました。そして、しっかりとした具体的な目標が見え始め、これからその方向に向かって一歩ずつしっかりと進んでいくだけだと確信しました。今後も、当社の強みである「自然石を積み上げる技術」をより多くの方に知っていただくための活動や、これまで以上の技術の向上、お客様に対してより一層の「安心」と「信頼」を提供するために全力で取り組んで参りたいと考えております。本報告書の作成にあたり、京北商工会の経営支援員である花倉祥代様、アクセルコンサルティング株式会社の岡原慶高様（中小企業診断士）、石井規雄様（中小企業診断士）のご支援を賜りましたことに感謝いたします。

平成 30 年 7 月 12 日
人見石工
代表　人見真一朗

2．この報告書についてのお問い合わせ先

名称　：　人見石工
代表　：　人見真一朗
住所　：　京都府京都市右京区京北細野町風ヶ鼻 9-9 乙合地
連絡先　：　075-852-0887
メールアドレス　：　hitomi-ishiku@rouge.plala.or.jp